

眼 科 学

【単位数：1単位，授業17コマ，予備4コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

瓶井資弘 教授（眼科学講座）

2 教育目標

（１）ねらい（Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b）

- ① コアコンピテンスの“医学的知識と科学的探究心”を備えるための診療能力を学び“高いプロフェッショナルリズム”を身につける。
- ② 眼・視覚系の構造と機能及び症候，病態，診断，治療を理解する。

（２）学修目標

- ① 眼球と付属器の構造と機能を説明できる。
- ② 視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。
- ③ 眼球運動のしくみを説明できる。
- ④ 対光反射，輻輳反射，角膜反射を説明できる。
- ⑤ 基本的眼科検査（視力検査，視野検査，細隙灯顕微鏡検査，眼圧検査，眼底検査）を列挙し，それらの原理と適応を述べ，主要所見を説明できる。
- ⑥ 屈折異常（近視，遠視，乱視）と調節障害の病態生理を説明できる。
- ⑦ 感染性角結膜疾患の症候，診断と治療を説明できる。
- ⑧ 白内障の病因，症候，診断と治療を説明できる。
- ⑨ 緑内障の病因を列挙し，それらの発症機序，症候と治療を説明できる。
- ⑩ 裂孔原性網膜剥離の症候，診断と治療を説明できる。
- ⑪ 糖尿病，高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明できる。
- ⑫ ぶどう膜炎の病因，症候，診断と治療を説明できる。
- ⑬ 視神経炎（症）・うっ血乳頭の病因，症候と診断を説明できる。
- ⑭ アルカリ，酸による化学損傷の症候と救急処置を説明できる。
- ⑮ 網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候，診断と治療を説明できる。
- ⑯ 網膜芽細胞腫の症候，診断と治療を説明できる。
- ⑰ 眼窩疾患の症候，診断と治療を説明できる。
- ⑱ ロービジョンケアを説明できる。

3 成績の判定・評価

（１）総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	全問多肢選択問題
態度	○	—	態度不良の場合は10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

上記(2)で総合成績が60%未満の場合は、再試験を実施する。

再試験は定期試験に準ずる試験を行う。60%以上を合格とする。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

試験で正答率が低かった問題、理解が不十分と思われた問題については、解説を一斉メールする。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
病気がみえる Vol.12 眼科		MEDIC MEDIA	基本的内容が網羅されている。 解説がわかりやすい。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
現代の眼科学 第13版	所 敬	金原出版	基本的内容が網羅されている。
標準眼科学 第14版	中澤 満 村上 晶 園田康平	医学書院	基本的内容が網羅されている。

6 準備学習(予習・復習)

- 教科書及び参考図書のどれかを選んで、その目次全体を眺め、どのような事項が取り上げられているのか確認しておく(1コマあたり約0.5時間)。教科書で不十分と思われれば自身で文献検索し、理解を深める。
- 翌日の講義シラバスを確認し、教科書や参考図書のいずれかを選んで読んでおく(1コマあたり約0.5時間)。
- 1コマ目の講義で配付された資料について講義後に内容を再確認し、2コマ目以降の講義に臨むこと(1日あたり約1時間)。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、一部、講師との質疑応答などのアクティブ・ラーニングを導入する。

(2) 講義の内容

1コマ目に総論として眼科医療に関するキーワードを解説し、2コマ目以降は眼科総論と各論について、適宜症例を提示しながら理解を進めていく。